

第3回米原市議会議員の議員報酬等の在り方に関する審議会会議録

開始日時	令和2年(2020)9月10日(木)9時55分 開会	
会場	米原市役所山東庁舎3階 第1委員会室	
出席者	委員：横山幸司会長、吉田正子副会長、重吉豊委員、藤田安子委員、振角大祐委員、 吉田真由美委員 事務局：木村局長、松田次長、小川副参事	
欠席者	委員：なし	
傍聴者	一般：1人 報道：なし	
次第	発言者	発言内容
1 開会	会長	<p>皆さん、おはようございます。</p> <p>今日は第3回目の審議会ということで、前回までに大分現状と課題というものが明らかになって参りました。</p> <p>そして、今日は、いよいよスケジュール的に申せば、次回が、答申案の検討ということで、そこに向けておおよそ答申に盛り込むべき審議会としての答申の方向性、結論、そうしたものを、今日はある程度、具体化、固めて参りたいというふうに考えております。</p> <p>すでにお手元に資料が届いていて、ご覧いただいたかと思っておりますけれども、この審議会は、議員報酬をどうするかと、具体的にはそれを上げるのかといったところが大きな目標ですけれども、ただ単に上げるというわけではなくて、やはり議会活動の中身でありますとか、あるいは定数の問題ですとか、あるいは財政的な問題、こういったことを、いろいろな角度から審議した上で、一定の条件と申しますか、そういうことも付帯して答申を申し上げたいというふうに考えているところです。</p> <p>今日は、そのたたき台として、事務局から今までの議論のまとめと、それに伴う答申案に繋がる案を御提示いただいておりますから、そこにつきまして御説明をいただいた後、また委員の皆様から忌憚のない御指摘、御助言等をいただきたいと思っております。</p> <p>そうした流れで、また11時20分頃には終わりたいと思っておりますので、どうか御協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、会議出席委員は6名で、全員御参加いただいておりますので定足数に達してしまして、本日の審議会を開催いたします。</p>
2 議題 ○議員報酬および議員定数について (1)第2回審議会での論	会長	それでは、早速議題ですが、まず初めに事務局の方から資料についての御説明をお願い申し上げます。
	事務局	<p>それでは、本日お配りしました資料に基づきまして御説明をさせていただきます。</p> <p>1点目は、第2回審議会の論点整理ということで、前回の会議で委員の皆様から出していただきました御意見をまとめさせていただきます。</p>

<p>点整理</p>	<p>た。</p> <p>まず、米原市議会の課題ということで、議会の構成、議員・議会活動、政務活動費の三つの項目で分類をしました。</p> <p>構成としては、一つ目、全国の市議会議員に占める女性の割合と比べると、米原市は低く、女性議員が少ない。二つ目、40代の議員が2人で40歳未満の議員がいない。三つ目、60歳以上の議員が14人と圧倒的に多いことから、若い世代から見て議員は魅力がないのではないかという課題を出していただきました。</p> <p>また、議員・議会活動については、一つ目、先ほどの議会の構成でも課題に挙がっていましたが、議員の年齢層から、子育て世代や若い世代が抱える課題の共有が図りにくく、子育て世代の声が届きにくい。二つ目、一般質問した内容について、その後どうなったかが追えていない。三つ目、議会報告会や意見交換会等の実施が少ない。もっと回数をふやして欲しい。四つ目、議員提案の議案数が少ない。また、政策討論の機会が少ない。五つ目、議会のBCP計画、業務継続計画を進めるなど、災害時におけるチェック機能が必要である。六つ目、議員が住んでいる地域など、小さな地域で物事を考えるのではなく、市域全域での議論が必要であるという課題が出ていました。</p> <p>また、政務活動費においては、月に1万円というその金額から、広報費の割合が多く、研修費の割合が少ない。もっと勉強のために使ってもらいたい。二つ目、会派や議員個人で調査研究や研修を行っているが、どのように生かされているのかわからない。議会活動の質の向上や充実の見える化を図る必要があるとの課題が出されていました。</p> <p>次に、(2)としまして、今申しました課題の解決に向けた視点をまとめました。一つ目、1回目の会議で御説明させていただきましたとおり、現代社会における自治体議員の性格は、より専門化しており、また専門化しています。これにより、議員報酬も生活給としての一面も有するようになっていきます。このことから、報酬額を地方公務員の水準と比較して増額することは合理的である。二つ目、報酬を増額することも視野に入れ、より多くの主体、女性や若い世代が議会に参画しやすい環境を整備する。三つ目、時代の変化や、県内他自治体、長浜市では、次回の選挙から定数を減らされるというお話を、1回目の時にさせていただきました。また、類似団体の動向も参酌し、議員定数及び議員報酬の不断の見直しを図る。四つ目、専門的な活動を行うためには、しっかりとした生活基盤が必要である。手取りが20万そこそこでは活動がなかなか難しいのではないかと。報酬の増額を検討すべきである。五つ目、市民に信頼される議会像を目指し、議員の質を向上させていく。六つ目、議員は市民が安全安心に暮らしていけるよう、議員活動に専念し、市民の負</p>
------------	--

託にこたえるよう努める。七つ目、誰もが参画しやすい議会を目指すため、議会や議員を魅力ある姿に変えていかなければならない。八つ目、小規模自治体で起きている議員のなり手不足、今のところ米原市では起きていない問題ではありますが、今後、人口減少が見込まれる中で、これにも留意する必要がある。九つ目、研修や勉強会など、議員や会派の活動の充実を図るため、政務活動費の増額も検討する必要がある。さらに、政務活動の成果を施策につなげ、その見える化のスキームを構築する必要があるとの意見をいただきました。

以上のことから、2ページに参りますが、課題解決のために何が必要なのかと考えたときに、次の五つにまとめられるのではないかと考えられます。一つ目が、議員一人一人、議会全体の質の向上。二つ目、政策の議論を重ね、議会からの積極的な提案。三つ目、議会及び議員が、現場において市民の意見を聞く場の制度化。四つ目、議員活動の見える化。五つ目、若い世代や女性が議員として立候補しやすい環境の整備。

そして、(3)としては、その具体策として、挙げております。一つ目、的確な質問をするための研修会を実施する。二つ目、専門家を招いて勉強会を行い、施策の立案、機能の向上を図る。三つ目、例えば議会サポーター制度など、専門的な知見や市民ニーズを取り入れやすいスキームを構築する。四つ目、専門家や担当者を交え、政策議論するなど、政策討論の機会を制度化する。五つ目、例えば、行財政改革に関する特別委員会を設置し、チェック機能を強化するなど、より専門的な機能の充実を図る。六つ目、議会改革を推進し、市民と議会の距離を縮める。七つ目、議会報告会や意見交換会などを通じて、市民ニーズの把握に努める。八つ目、公約の達成度を示す。九つ目、政務活動費をより活用し、より専門的な知見の習得を図る。10、時代の変化に応じた報酬の見直しなど、多くの主体が立候補できる環境の整備を図る。

このような具体策を講じることで、市民の意見や専門的知見の活用、議会内部における政策討論を踏まえ、財源を含めた施策を提言することで、安心安全な米原市を目指すことに繋がっていくということです。

この内容は、すべて委員の皆様からいただいた意見を基にまとめさせていただいたものであり、審議会が考える議会改革案としてはどうかということで今回資料とさせていただきます。

次に、2点目として、議員報酬のシミュレーションです。3ページに参ります。これについては、第2回会議では具体的な金額等の議論はされておりましたので、前回の会議で提示させていただきました内容と同じものを出させていただいております。人口5万人未満の市の市議会議員の平均報酬月額に改正した場合を例として挙げさせていただいております。また、下の方には、30万から40万までの1万円刻みごと

		<p>の年収と米原市職員の給料と経験年数、階級を参考でつけさせていただいております。</p> <p>最後に、前回の会議の中で、専門の議員のうち、年金受給者が何人いるかという御質問をいただいておりますが、調べましたところ、専門9人のうち6人でしたので回答させていただきます。</p> <p>以上、資料の説明とさせていただきます。</p>
<p>(2) 意見交換・意見集約</p>	<p>会長</p>	<p>それでは、今日はもうざぱりこれが議題ですから、今の御説明を受けまして、委員の皆様からどんなことでも結構ですから、御助言、御指摘等をいただきたいと存じます。</p> <p>最初に、私から少しお話をさせていただきたいと思いますが、今までの議論の結果、検証してきた課題、そしてそのための解決策、そしてシミュレーション、こうした流れは、答申案にも比例してくるところですから、こういった流れというものは、大変うまくまとめていただけたかなという感想を持ちます。</p> <p>その上で、一つさらに資料としていただきたいなと思いますのは、最後のシミュレーションのところですね。初回の時に資料として額の上での類似団体との比較がありましたが、人口割の類似団体、人口5万人未満ぐらいの市の議員定数の全国平均、こういったところも併せて御提示をいただいた方がいいというふうに思います。確か、同じような団体の比較をした時には、16名ぐらいが妥当であったというふうに思いますから、人口割それから報酬額の平均を見ても、一定の定数の削減と同時に、報酬を上げることが、一つのシミュレーションになるんじゃないかなというふうに考えますので、そのあたりも付けていただくと、いいのではないかなというふうに思います。</p> <p>それでは、順番に全員の委員にお聞きしていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>副会長さんからお願いいたします。</p>
	<p>副会長</p>	<p>わかりやすく資料をまとめていただいて、ありがとうございます。今後、報酬額、それから定数を考える上で、前回資料からいっても、全国的なところのバランスというかそれも考えていく必要があるんだということの資料もありましたので、それも参考にしながら、先生今おっしゃっていただきましたような前回資料で、類似団体はどうかというのを改めて比較しながら一つは考えていく必要があるかなというふうに思いました。今回、次回とで、定数、そして金額を考えるということですので、前回でも話が出ておりましたが、一定金額については、経過から見て、また他の自治体を見て上げることが妥当ではないのかなということをおもいますものの、今コロナ禍で経済が落ち込み、生活困窮の方もたくさん出ていらっしゃるという状況を考えますと、議会の方でも今</p>

	<p>後検討されることだろうと思えますけれども、上げることについては、踏み込みにくいというのがあります。</p> <p>また、定数については、近隣自治体の動き、あるいは今後の米原市の人口等々考えまして、2名減ぐらいがいいのではないのかな。減少するという方向で話をしてもいいのではないかな。ただ、それぞれの議会活動がよりしっかり見えるようになる。また、その活動の状況を市民の皆さんが理解できる。そのような努力とあわせての話でして、数が減ったら単にいいのか、増えたらいいのかということではなくて、減った中でも、米原市全域を見た、将来展望の議論を、一部ではしていただき、または地域に特化した、地域ならではの課題も、その議員が出していただく。両方の面を議員の皆さんが持っていただくことで、より米原市の政策論争、あるいは今後の未来展望に期待が持てるようになるのではないかなというふうに考えます。</p>
委員	<p>今日は、最終的な結論を出すというようなことを、前回お聞きしておりましたので、私なりにまとめたことをちょっと述べさせていただきます。</p> <p>まず、前回、議会だより、こういったものをいただきましたし、そういったものをつぶさに見せていただきますと、議会での議員の発言は、平素からの活動の集大成だろうというふうに考えておるわけですが、議会だよりで見せていただきますと、議員の発言は、国の制度の適用に関する質問であるとか、あるいはまた米原市が実施した施策とか計画、利用状況、それから現状、そういうところに関する質問が大半を占めておって、提言提案は非常に少ない現状にあると思えます。</p> <p>前回の審議会で、現在の議員の年齢構成が示され、今も御説明があったわけですが、議員の大半が60歳以上であるということで、やはりもっと発想豊かな若者が議員になって、自分の思いを実現させたいと思えるような、本当に魅力ある議員にする必要があると思えます。</p> <p>従いまして議員定数を減らして、議員報酬を上げる、こういうことにすべきだと思います。</p> <p>このことに関しまして、ちょっと私の考えを述べさせていただきますと、まず議員報酬ですが、一挙に大幅に引き上げることは困難だと思いますので、今も市の方から提供されました議員報酬の改正シミュレーションを参考として、議長1万円、副議長2万円、議員3万円の引き上げが妥当ではないかと思えます。</p> <p>しかし、議長につきましては、40万円という現在の報酬で、副議長、議員と大きく差がありますので、私は、議長は一律に引き上げの対象としなくていいんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>米原市の財政力指数が0.56と、自主財源確保にあまり余裕はない状況</p>

	<p>の中では、これぐらいが妥当ではないかなというふうに思います。</p> <p>次に、議員定数についてですが、米原市は、人口が3万9,295人というふうに聞いておりました、議員定数は18人で、議員1人当たりの人口は2,183人ということになります。長浜市は人口11万8,498人、議員定数は現在26人ということですが、議員1人当たりの人口は4,557人となります。令和4年に改正されて、定数が22人になるということですが、22人になった場合、議員1人当たりの人口は5,386人ということになります。米原市と同じ議員定数のところの野洲市は、人口は5万1,091人ということですが、ここでの議員1人当たりの人口は2,838人ということになります。このように見ていきますと、米原市の議員定数は14人ぐらい、現在よりも4人減らして14人ぐらいが妥当ではないかなというふうに算出をされます。米原市の議員定数が14人になった場合の、議員1人当たりの人口は2,807人ということで、現在の野洲市の議員1人当たりの人口と、ほぼ同じような形になってくるということ、いわゆる比較的に見て参りますと、このようになるんじゃないかなというふうに思います。</p>
委員	<p>まとめていただいた論点整理をありがとうございます。</p> <p>構成の3番であったり、2番の課題解決のための視点の4番と関わってくるのかなと思いますが、魅力という言葉が使われていらっしゃるの、すごく僕の中で気になって、魅力とは何だろうかと、ちょっとこの言葉では、それぞれの思いがいろいろありすぎて、幅が広いなというふうに感じたのと、そもそも議員になることの魅力とは何かと思ったときに、若い世代から見て議員は魅力がないのではないかという書き方をされているときに、それは報酬だけではないし、例えば議員になられる方は多分、米原市のことをよくしたいとかそういう思いがあつてされると思うんですが、議員になってそれができるように感じないというのも、この書き方通りに行くなら、魅力がない一つなんだろうと思うんです。だから、報酬を上げたからって魅力が増えるわけでは絶対ないし、このまま議員定数を減らして報酬を上げるとか、今回どうしてもそこを出さないといけないんですけども、多分どちらにしても、魅力は、このままでは、ない方向にしかいかないですね。極端に報酬を上げて多分変わらない。市を良くしたいのであれば、今なら、自分らの活動を言うわけじゃないですけども、市民活動とかNPOとか、より地域を変える活動というのはあるので、そういう中で、あえて議員になる人はいないと思うので、何かもうちょっとその先を考えていかないといけないんだろうなというのを、これを読んでいてすごく思いました。なんかそのコロナになってそのエッセンシャルワーカーと言われる人たちの、環境が良くない。何とかそこを良くしようというのが、ある程度今出始めて</p>

		<p>いるような気がするんです。介護職とか、子どもに関わる仕事とか、そういう人達って実はこういうときにすごい必要な仕事だから、何とか待遇を良くしようという動きが出ているんですけど、同じようなことが多分議員の部分にも、住民の方から出てくるようにしないと、なかなか難しいと思います。難しいばかり言ってあれなんですけど、そういう話をする場所だと思うんですけど。</p> <p>2枚目のその課題解決のために必要なことで、その議員活動の見える化というところ、多分いろんな範囲のことでおっしゃっているんだろうと思うんですけど、じゃあ見える化とは何かなというふうになったときに、ちょっとよくわからないなど。その下の課題解決のための具体策で議会改革を推進し市民と議会の距離を縮めるっていうこういうところとも関わってくると思うんですけど、例えば今だとそのSNSを使って発信をすれば、市民との距離が近づいたとか、その議員活動が見える化できているというふうに感じてされている方もいらっしゃると思うんですけど、多分発信されていることは議員活動ではない部分を発信されている。普段の生活とか、そういうのは多分議員活動じゃない部分を発信されている。だから、こういうのもなんかもっともっと本当に、議員の方一人一人がしっかり考えられないと、どんどん見える化しているつもりでも、見ようによってはなんだそんなことばかり発信していて、議員活動ちゃんとしているのというふうに見られかねないなとも思います。だから、こういうのを出した上で、何か偉そうになってあれなんですけれども、本当にお一人お一人が、どうやって議員という仕事の価値を伝えるかというのを真剣に考えていかないと、こういう議論、だから減らす方向にしか、私はどちらかとふやしたい方向なんですけど、そんなふうにも、思います。ちょっと感想なんですけど。</p>
	<p>委員</p>	<p>いろいろまとめていただきましてありがとうございます。また、私変なことになるかもしれないんですけど、この間の本会議をテレビで見まして、ちょっと思ったことは、委員会で話せばいいんじゃないかなあというようなことを、本会議で質問されていることがあって、これってここで質問することなのかなあとかとちょっと思うことがあったんですけど、もっと他に大切なことがあるんじゃないかなと思うこともありました。</p> <p>また、何回も見てると、1度も質問されていないような議員もおられるんで、あれって、質問は年間に何回とか何時間とか決められているんですか、議員1人に、何もありませんか。そういうのってないんですか。座ってらっしゃるだけかなって思うような方もおられて、ちょっとそこが不思議で、それだったら議員のその人数いらないんじゃないかなと思ってしまいました。</p>

		<p>だから、そういう方たちが公約をどれだけ、達成されているのかなど不思議に思いまして、なんか公約をするんだったら、それだけのことを守って欲しいし、達成して欲しいし、それをどれだけできましたよっていうのを、最後に見せて欲しいなっていうのを思いました。</p>
	委員	<p>議会だよりとか、伊吹山テレビの生中継とか、いろいろそういうところで、議会の質問内容とかは見ることはできるんですけども、なかなか議会だよりでも、全部を読むということはできなくて、自分に何か関係がありそうなとこだけちょっと見て、そこには注目するんですけども、なかなか他のことは全部把握しきれない状況なんです。というふうに議員の中でもその専門家というか、何か農業の方面に集中して質問されている人とか、道路のこととか、それから福祉関係とか、子育てのこととか、何か専門性があるので、それはそれでいいと思うんですけど、こちら側もその自分の今の問題というか、私はそんな若い人たちのことには、第一には気が向かないんです。介護のこととか高齢者のこととかには気が向くんですけど。そういうふうに、いろんな情報は、発信はしていただいていると思うので、これは私たちが待つのではなくて、自分から情報を取りに行くということが大事であって、定数に対しても、今私は別にこのままでもいいのかなあとも思うし、報酬に関しても、普通なら上げていただいてもいいんですけど、先ほど副会長がおっしゃったように、コロナ禍で、今ここを変えるというのもちょっとどうかかなとは思っています。</p>
	会長	<p>ひと通り皆さんにお聞きしました。</p> <p>皆さんがおっしゃること、そのとおりだと思うんですけど、少しまとめておきたいと思うんですけども、これを実行するかは、我々がこの審議会で、答申は一定の報酬なり定数なり、定数は付帯意見としてなんですけれども、答申させていただいても、そのあと、まだ役所としましては、市長部局の方に、特別職報酬等審議会という、また報酬を考える審議とは別にありまして、そこをクリアしなきゃいけない。</p> <p>それから定数は、もちろん議会で定数条例を改正しなければならない等、これからまだそのハードルと言いますか、いろんなそのプロセスというのは、まだあるんです。ですから、我々がここで答申を申し上げても、まだまだ幾つかそれをクリアしていかないと、その通りにならない。そして、時期とかいうものは、議会等のタイミングによって実施されていくというのが流れですので、今副会長もおっしゃったように、この時期に、すぐ報酬が上がるのか、上げられるのかということは、またそうした政治的なタイミング等を鑑みながら御判断されていくということであろうというふうに思います。</p> <p>ただ、すごい先のお話を答申しているわけではありませぬので、聞くと</p>



		<p>ころによりますと、来年度に選挙もあるということですから、おそらくそこに向けて、議会の方、あるいは執行部の方も、アクションされていくんだろうというふうに思いますけれども、そこに向けて我々も答申をさせていただくということですが、そういう中で我々としましては、あくまでも決定権を持つわけではありませんけれども、やはりもし上げるとするならば、こういう額が望ましいんじゃないかと。そして、それには付帯意見としまして、やはり定数を削減するというようなことも条件ではないかと申し上げたいと思います。</p> <p>それから、委員から御指摘ありましたように、具体的な議会改革の対策というものが、ただ示されるだけではなくて、本当にそれを担保する、実際こうやっていくんだというものを先に示していただくとか、こういう御努力を議会が示していかれた後に、やはりそうした議員報酬のアップというようなものも、市民の理解を得られていくんじゃないかというところまで、我々は答申・御意見として申し上げていく必要があるんじゃないかなというふうに考えるところです。</p> <p>この時点で、何か次長さん、補足ありますでしょうか。</p>
	事務局	<p>今、会長がおっしゃっていただいた中の、もうまとめていただいているような感じなんですけれども、先ほど委員がおっしゃっていただいた中で、一般質問の話なんですけれども、今コロナの状況の中で、他の市議会もそうなんですけれども、できるだけ会議の時間を短くしようという取り組みがされていて、うちの議会の中でも、議員が自ら、一般質問の時間を短くしようとか、あるいは、会派というのがありまして、その会派の中で、今回は僕と僕がするから、うちの会派からの一般質問の数はちょっと減らそうとか、そういう取り組みを今されているので、そういうタイミングもあるということが一つです。</p> <p>それともう一つ、先ほど会長の方からありました全国のこの類似団体の5万人未満の類似団体の議員定数についてということですが、これは一番最初の資料でちょっとお示しをさしてもらったんですが、それを見ますと、これあくまで全国の全部の類似団体を、出してきたものではないんですけれども、一応この近隣ということで、出してみますと、平均は15.9人でした。18人以上のところはこの近隣ではなかったです。18人以上というところに入ってしまいうんで、18人のところもありましたけれども、19人以上のところはなかったということです。18人のところはちなみにですけども、20団体のうち6団体、あとは16人とか15人とか14人というような数字のところ、ザクッと平均すると、15.9になったということで、これは全国規模ではないので、ちょっと他の違う異常値とか、そういったものもあるかもしれませんが、そういうことでした。</p>

		<p>それと先ほど委員がおっしゃっていただいたことなんですけれども、魅力とはというふうな話の中で、確かにそういう部分をお感じになるのかなあというふうに思うんですけれども、一定例えば今はそういう取り組みはしていませんけれども、先進的な会津若松市議会ですとか、そういうところは議会サポーターなるものを募集されたりしながら、議員でない方の意見も取り入れるみたいな取り組みも、議会改革の中ではされているところもあります。</p> <p>それで、何が申し上げたいかと言うと、先ほどおっしゃっていただいた地域の方でNPOなり、あるいはそういった団体を立ち上げて、一生懸命地域のことに取り組んでおられる方々もおられるわけです。でも、その方々が、果たして議員になろうかというところまでいっているかと言うと、それはまた別の話になってくるかと思うんです。そういう方々の意見も取り入れるような仕組みを持つことで、そういった方々が、よしじゃあ議員になってみようかとか、そういうふうなマインドというふうなものも魅力の一つとして繋がっていきけるのかなあというのは、私の個人的な思いになるんですけれども、そういったことも考えられるのかなという気はします。</p> <p>ただ、今、うちの議会がそこまで踏み込んでいるかと言うと、議会報告会とか、あるいは各種団体との意見交換会はされていますけれども、さらに一歩というふうなことになってくるのかなあということです。</p>
	<p>会長</p>	<p>それでは、二巡目に聞いていきたいと思えますけれども、いよいよ具体的な案としてはある程度固めていかなきゃいけない。そこに一定の意見、条件といいますかそういったことも付けていきたいというふうに考えた時に、基本的な路線としましては、今お示ししていただいているような類似団体と比較して、5万人未満の都市の額に限りなく近づけていく。そして、定数も、偶然にもと言いますか、大体2名削減といったところが、類似団体のところですから、それは一つ大きな大義名分としては、いいんだろうというふうに考えます。</p> <p>ただ、そこにさらに一言付け加えるとするならば、例えば定数の問題も、先ほど副会長が、地域の声を伝えるという側面も、側面というか大事な面ですが、非常に重要であって、ただ下げればいいという問題ではないということをおっしゃいましたけれども、それはその通りですが、今やはり定数削減というのが、行われている一つの背景には、財源的な問題とか人口当たりのという問題もありますが、一つは、合併してそれぞれの旧町の出身を、地区を母体とすると言いますか選挙区とするような、まだまだ地域の団体、代表であるという感覚、もちろんその面も半分はあっていいわけですが、半分あるいはそれ以上に、米原市全体の議員であるというところが、どうも不十分なところも、多くの自治体で見</p>

	<p>られる現象なわけです。</p> <p>そういう中で、もう旧町に比例した議員定数というのではなくて、全体としてこれだけの議員がいらっしゃれば、市全体を見渡すことができると、こういう観点から議員定数の削減というのも行われているのが現状としてあると思うんです。</p> <p>そうしたことも鑑みますと、この米原市の議員というものが、やはり今まで皆さんと議論してきましたように、合併から十何年か経ちまして、やはり本当の、合併した後の米原市としての議会というもののあるべき姿というのを、見直すいい機会ではないかなと考えるわけです。</p> <p>それが報酬と定数と、そして中身を伴った議会改革に繋がっていくといますか、それはもう表裏一体で、同時進行でお進めいただくというのが、この審議会の少し欲張り、僭越なところもあるかもしれませんが、我々として最大限、御意見を申し上げていきたいところじゃないかなというふうに考えるわけであります。</p> <p>ですから、何度も言いますが、もちろん議会御自身の御判断、それから、執行部の市全体としての御判断というのものもありますけれども、なるべく我々は具体的な、すぐにも取りかかれることを、やはり具体的に申し上げていくのがいいんじゃないかなというふうに考えるわけであります。</p> <p>そういう面では、先ほど委員がおっしゃったように、SNSも、単なる自分のアピールをするということではなくて、やはり市全体のアピールをしていただきたいなと思います。</p> <p>それから、委員が何度もおっしゃっていますように、それは委員がおっしゃった魅力ということにも繋がってくると思うんですが、やはり議員の質問したこと、指摘したことというものが、公約という面もありますが、前回もお話ありましたように、実際にその政策として、どうなったのか、それがやはり議会が提案したことが、きちんとそのようになっていけば、やはり議員になろうとする人も多いと思うんです。</p> <p>それが、議員になっても、結局そうした特定の地域や団体の代弁者であるということに終始するならば、議員の魅力というものも、半減するだろうというふうに思うんです。</p> <p>そして、やはり政治の決断というのは、行政職員にはない大きな権能であるわけですから、そこの辺りを十分生かしてきれてないんじゃないか。それをやはりチェックをしていくと言いますか、自己チェックをしていただいて、議会として公表していく。こういうことが、内省にも繋がりますし、外に対してもやはりアピールと言いますか、評価に繋がっていくんじゃないかなということをおもうんです。</p> <p>それは、定数の削減、報酬のアップを待たずにしてできることであり</p>
--	---

		<p>ます。そういう御努力をぜひしていただきたいなというふうに、私は思ったりします。</p> <p>そういうことで、もう一言、何か具体策といますか、そんなことも含めまして、御意見をいただけたらありがたいです。</p> <p>副会長、お願いいたします。</p>
	副会長	<p>私、先ほど地域の声、それから米原市全域の声ということをし申し上げましたけれども、合併しましても、多分ひと世代、ふた世代ぐらい人が変わらないと、一つのまちという視点にはなかなか立ちづらいというのが現実だろうと思います。その中で、地域の方の票を得て議員になれるわけですから、どうしても出身地域のことにしっかり目が行き、またそこを代表した意見が、ややもすると出る恐れが多い。そうすると米原市全域でどうするのかというトータルのもの見方というのを、選挙の時、あるいは議会活動等できちんと出していただく、そのことをきちんと市民に、もれなく行き渡るような手法を考えていただくということでない、どうもあの地域の議員だから、ああいうことをおっしゃる、要はその我田引水的なことになりがちでして、議員活動というのは、元々議会での活動とあわせて、議会以外での市民の声を吸い上げて、またそこに対応していくという活動と併せ持っていらっしゃいますので、ややもするとそこが、次の選挙のステップになる可能性だってあるわけで大変難しいと思うんですけども、それが米原市全域の将来の発展、住みやすさに繋がるというものであれば、きちんとした将来展望、理屈のもとに出して欲しい。地域だけで話をするのではなく、あるいは行政とだけ話をするのではなく、経過も踏まえて、きちんと出していただくことで、よりその方への理解なり信頼が増えるのではないかと。そうしますと、新たに議員になってやろうとする方、委員が魅力とおっしゃいましたけれども、そこにも繋がってくるのではないかと思います。まずは選挙の時に、何をしていくのか、こういう課題があって自分として何をしていくのか書いてはあるのですが、なかなかわかりにくい。どれを見てもそのように読めてしまうというところがあるので、そのあたりをきちんと出して欲しいと思いますし、議会での質問にはいろいろあると思いますけれども、委員会あるいは政務調査費を使っての活動の中で、より米原の、今日ある米原市の歴史とこれから先の課題ということの勉強会というものを、専門家それから職員の皆さんとの間で深めていただきたい。その分野が、まだまだ分野によっては勉強の部分が、ちょっと深まっていないところが多々あるようにも思いますので、そこを深めていただくことで、若い方あるいは高齢の方、困難を抱えていらっしゃる方の選挙活動というところにも、今度は選挙の投票活動にも繋がっていくのではないかと思います。</p>

		<p>その上で、やはり人数としては、あまり地域を限定してしまいますと、またこれ地域の体質も出てしまいますので、近隣の市町の状況、あるいは米原市の地域の面積というところとも絡めて、少し減らして16人ぐらいでいいのではないかというふうに思います。</p>
	委員	<p>先ほど、申し上げましたとおり、人口の1人当たりの面からも検討する必要があるのではないかと感じています。まだまだ何か魅力ある議員ということになりますと、今私が実際に地域で目にする議員の活動というのは、例えば運動会に来賓として出られるとか、あるいは小学校の入学式、卒業式に来賓で出られるとか、そういう公的なそういう場面ぐらいしか、あまりお目にかかることはないんで、やはり、本当に議員として、生きがい、やりがいが感じられる、そういうふうな活動。それは、先ほど委員がおっしゃったような見える化。我々が実際実感、議員にこんなことをしてもらった、あんなことをしてもらったという、そういう地道な活動を、やはりそういうことでやりがい、生きがいを感じていただくようなそんな議員、そうなりますと、やはり若い方も議員になってやろうかなということになられるんじゃないかなというふうには思いますし、でもまだまだ、先ほど会長がおっしゃいましたように、やはり地域の代表というようなことで、米原市全体の議員だという、住民の方もそういった意識というのは、本当に少ないんじゃないかなというふうに思います。まだまだ足りてないなということです。</p> <p>この検討の中には政務活動費についても含まれているということで、12万円がいいのかどうかという前に、まずこの政務活動費の経費の範囲につきましては、何か調査研究とか研修とか、各種会議への参加とか、そういうのがありますけれども、いずれも旅費が伴うということだと思えますけれども、費用弁償等の違い、この辺はどういうふうになっているのか、ちょっとそのへんを教えてくださいたいのと、もし議員が、費用弁償が適用されるということであれば、どういうふうな活動で適用されるのか。それから、議員の費用弁償は実績があるのかどうか、そこら辺のところをもし教えてくださいたいと思います。</p>
	事務局	<p>今の委員のお尋ねなんですけれども、一応費用弁償というものにつきましては、考え方として、公務で行く場合と、それから例えば会派とか、あるいは会派に属さない議員が、政務活動費を使って行かれる場合、この大きく二つに分かれてくると、考え方の違いです。そのうちの公務の場合には、一応条例では、費用弁償を支給するというふうに書いております。その公務とは一体何なのかということになってくるんですけれども、例えば、議会が開催されるので、この庁舎の方に来ていただくという場合です。逆に言うと我々職員が、自宅から通う通勤手当のようなものというふうなことで、それは実費の弁償ということになりますし、例</p>

	<p>えば、委員会というのがありまして、その委員会が行政視察に行かれる。この場合も、費用弁償というふうな形になって、ちなみにその額については、例えば電車で行かれたら、その電車代が出るということで、それは職員の旅費の規定に準じております。これが一つです。もう一つ会派なんかで、視察に行かれるとか、陳情に行かれるとか、それは公務ではありませんので、逆に、政務活動費の使途、使い方の一環の中に入っております。この場合の考え方も、実費の弁償ということになってきますので、我々一般職員の旅費の規定に準じた取り扱いという形になっていきます。</p>
<p>委員</p>	<p>人数とか報酬、平均という言葉が出てくるんですけども、ちょっと強い言い方になったらあれなんですけれども、平均は多分そんなに意味がなくて、じゃあどこの市町村も平均に合わしていくという、その平均がそもそも何で出てきている数字かというのも、僕あんまりよくわかってないんですけど、多分こういうふうに他の市が、平均に合わせていこうとみんながしていって、最終的にその数値に収まっていくんだらうなと思うんですけど、何かそういうことを思うのと、もう一つ例えばこちらから、もうこちらとしては、維持とか増やすという方向で出して、後に例えば数を減らすというふうになったときに、怖いのが、例えばその議員定数とか報酬を減らす時点で、もうやり切ったみたいな。定数を減らしたから、報酬を減らしたから、もうそれで、何か一つ成果みたいに出してしまうんです。これだけの税金を浮かせたとか、でもそれも平均と同じぐらい意味がないと思っていて、逆に増やす方向だと、どうやってそれを納得してもらおうとか、それを認めてもらうためにどうしようかという、結構みんな頭を使わないといけないんですけど、減らす方向だと、もうその時点で、やることやったぞみたいになるのは避けて欲しいんです。いや、減らしたからって別にそれは何の成果でもないし、減らした上で、より市民の生活をどうやって良くしていくかって本当に大変なところをちゃんと考えてくださいねという、そこはぜひ残しておいて、意見として言って欲しいんです。本当になくすとか減らすだけでやった感とか出すのは、そういうふうになりがちなのでそこは避けて欲しいです。平均に関しても、平均と同じにしたからといって、それが何か意味があるかという、多分意味はないです。どういう数字にするにしても、ちゃんと考えないといけないんだらうなと思います。</p> <p>あと、なんかどうしてもこういう話をすると、議員の資質とかそういう部分に行くんですけど、多分皆さんも。結局、僕ら市民が、そういう議員を選んでいるんですよ。で、議員一人一人、僕全然その人たちが悪いとか思ってなくて、議員がそういう活動でいいと思うような市民なんです。だから、どんなに多分ここで議論しても、結局僕ら市民一人一</p>

		<p>人が、もっと日頃から意識を変えていかないと、出てくる議員は変わらないので、何か多分この先、議会をより良くしようという話で、多分出して欲しいんですけど、と同時に難しいんですけど、僕ら市民一人一人がどうやって、なんかその普段の生活を自分事にしていくかみたいなのは、ぜひ議員を含めて一緒に、報告会しても人が来ないとか、そういう状況の中で大変なんでしょうけど、多分議員はそっちの意識も持っていないと、結局どンドンしりすぼみになっていく方向なので、また感想ですけど、すごく思います。だから、本当に議員をどうこう言うというよりも、多分本当に僕ら市民一人一人の意識をもっともっと、みんなで上げていくことを大変ですけどしていかないとなあと思います。</p>
	委員	<p>私は、今の米原市だったら、定員を2名ぐらい減らして16人ぐらいで、議員の報酬を上げていくという形が一番いいのではないかなと思うんですけども、ただ議長と副議長、議長を上げるとかというのがちょっと私には理解できなくて、ここで10万も差があるのかなと思うぐらいに、議長って何なのというのがちょっとずっとありまして、議長は別に上げなくていいんじゃないかなというのと、議員を上げるんだったら副議長も上げていかないといけないので、そこは、議長を上げなくて、副議長を35で、議員は33とかというのは妥当な線じゃないかなあと、個人的には思っています。</p>
	委員	<p>これは余談になるんですけども、合併して初めての市議会議員選挙の結果のときに、伊吹地域から7人当選されたんです。それを、私の近所のおじさんが、もう80近くやったんですけども、伊吹地区から7人も当選したんや、これからこっちの方はようなるぞなんて言わはって、それは違うよね。米原市全体のことを、考えてもらう議員なんやけど、そういう意識がまだ、やはり未だにみんなの中にはあると思うんです。そこら辺をやはり変えていかなあかんのと、それから、さっき、次長がおっしゃった、議員サポーター制度、これはここに書いといていただける議会サポーター制度という、それですか。何か新しいやり方、ちょっと詳しく聞いてみたいなと思いました。無償なのか有償なのか、自分から自発的になるのか、ちょっとそこら辺を、どこでしたっけこれ、会津若松市ですね。ちょっと参考までにお聞きしたいです。</p>
	事務局	<p>議会サポーター制度というふうなことで、取り組まれている例があります。今、議会がそういった専門的な知見、それを取り入れようとする場合の制度としては、参考人の招致という制度があるんですけども、あるいは公聴会、どちらかというところの公聴会というのは、例えばこういう請願を何とか認めて欲しいというふうな願いがあって、それに対してその願意を訴えている本人、あるいは団体をお呼びして意見を聞くというふうなことなので、ちょっと違うかなと思うんですが、参考人制度</p>

		<p>というのは、議会が専門的な知見を是非とも取り入れて、それを、自分たちのマインドを固めるために、活用したいというふうな制度、これが今のところでき得る手段としてあるんです。議会サポーター制度というのは、法律上はないんですけども、先ほど申しました参考人制度を変化球的に使うことは、今のところ是可以するのかなというふうに思います。会津若松市は、そういうことを活用しながら、専門的な意見を持っておられる方とかを招き入れて、政策の方に反映していくというような取り組みをされているということです。</p>
	<p>会長</p>	<p>それでは、皆さんの御意見はそれぞれ素晴らしくて、付帯意見としましてはそれぞれに盛り込んでいただきたいなとも私思うところです。</p> <p>最終的に確認だけしていきたくは思いますけれども、その前に委員の御意見に対しましてちょっと私なりの見解を申し上げますと、平均に意味がないというのは本当おっしゃるとおりなんです。それだけを見てそれに近づけるということだけであれば、それは全く意味のないことです。</p> <p>ただ、適切な人数だとか報酬だというのは本当に難しいところですが、それなりに各自治体あるいは各議会が、こういう審議会を経て、あるいはそういう審議会を設置せずにかもかもしれませんが、しかしそれなりに議論をした上で、今の定数なり報酬に落ち着いていると思うんです。そういう面では、その過程はなかなか見えてこないんですけども、類似団体の数値というものが一つの参考とすべき、よりどころになるという面はあるだろうなと思います。</p> <p>また、おっしゃったように、私も行政改革ということを中心に専門としていますが、行革もやはり誤解がありまして、とりあえずカットするとか削減するということが目的では全くなくて、委員の皆さんも同じ思いだと思うんですけども、ちゃんと仕事をしてくれればいいんです。それは皆さん一般市民は同じことを思っているとおっしゃると思うんですが、今がそれがそうとは言い切れない、不十分だと、不満に思うところがあるわけですが、そういったところをやはり考えていくときに、今の水準から純増で、報酬を上げていく、予算を上げていくことが、この米原市全体の財政難ということも鑑みたときに、なかなかこれは難しいだろうという中で、今の予算の枠内で、規模内で収めるためには、このぐらいの額が望ましいであろうということも一つの理由として考えてきたというところがあるわけですが、ですから、そうした予算の膨張を防ぎつつも、充実した議会にするためには、幾らの報酬で、定数で、活動が望ましいのか、こういう見地から、我々は御提案を申し上げていきたいと、そういう思いであります。</p> <p>それと同時に、委員がおっしゃったように、やはりそれを選んでいられるのも市民であると。これは本当におっしゃるとおりでして、そうした時</p>



	<p>にやはり市民力の向上ということ、議会力の向上も大事なんですけども、市民力の向上ということも非常に大事でして、そういう面では、例えば市民協働を司る部署が米原市役所にはあるかと思えますけれども、そういったところも、やはり議会活動と連携したような、市民への説明会とか、あるいは今のサポーターですとか、逆に市民からの参画を促すような仕組みですとか、意見を吸い上げるような仕組みですとか、それも協働なんですよ。NPOとかに補助金を配ることだけが協働ではないわけです。</p> <p>そうした普段からの市民力の向上ということも視野に入れながら、やはり最終的には市民も議会も、まちを良くしていくというためには、どういう仕組みがいいのかと、どういう議員を選んでいくべきなのかと、どういう議会活動をしてもらうべきなのかということ、同時に啓発していく、そういう学習の機会を設けていくということは、非常に大事なことだというふうに思うわけです。ですから議会の中でも、すでにこの勉強会というようなことが、議会基本条例に書かれているわけですが、それは単なる自分たち議会のアピールという場ではなくて、市民とともに勉強し、成長する場であって欲しいなと、そういうことを目指していただきたいなというふうに思います。</p> <p>そういったことを踏まえながら、次回、一定の形として提案をしていかなきゃいけないということ、今日までに出された具体的なシミュレーションをもとに、次回具体案を出していただきたい。また、先ほど次長と事前にちょっとお話してまして、いい報告書がありましたね。どこか先進事例がありましたけど、次長教えてください。</p>
事務局	<p>今回のこの審議会に当たりまして、全国の他の市議会が、同じようにやっておられますので、どのような視点でまとめられているのかということ、ちょっと探って、これは事務方レベルの話なんですけれども、そういった中では、一つはやはりこの審議会、議論をしていただいた中身なんですけれども、単に類似団体との金額的比較とかということじゃなくて、それも大事です。財政力のことも必要です。ただ、その前に、議会の本来のあるべき姿というようなことも議論していただきました。見ていますと、やはり同じような議論展開をされているところがありまして、一つは、見直しにあたっての視点というようなことで、まさにこういう議会になるべきじゃないとか、あるいはその議員報酬の現在の位置付けですとか、そういったことも踏まえてというふうな、その視点をまず持つておられると。その視点から導き出されて、報酬はこうであろうというふうな結論を導き出されているというふうなこと。</p> <p>それから、政務活動費についても、同じように視点を持ちながら、結論を出されているというふうなことがありました。</p>

		<p>そして最後に、付帯意見と言いますか、今まで出されたような、こういった御意見も、そこに述べられているという論法のところが一つありまして、これは非常にわかりやすいなというなことがありましたので、今日御議論いただいたことを、そういった形にまとめさせていただけるのならば、一度そういう形でまとめてみることも可能かなというふうには思います。</p>
	会長	<p>ほぼ我々が取ってきた手法、シナリオと一緒にですから、次回そのような形で他の自治体の先進的な取組も参考としながら、具体案をお示しいただきたいというふうには思います。</p> <p>次長の方から逆に、まとめるにあたって、この点だけちょっと委員の皆さん聞いておきたいというようなことがありましたら、おっしゃっていただきたいと思えますけれども。</p>
	事務局	<p>今、御議論いただいた中で、具体的な人数とか、あるいは額とか、そういったところ辺が出てきておるんですけれども、そこら辺、また政務活動費については、今のところまだ、踏み込んだ御意見まではっていないんですけれども、そこら辺をちょっとどうかなと。16とか、ああいふ数字とか出てきておりますし、この資料は前回は出していますけれども、単に平均を出しているものですが、そこら辺で、額の具体的なこととか、そこら辺をちょっといただけるといいかなというふうには思うんですが。</p>
	会長	<p>答申の案としまして、具体的に、例えば議長、副議長、議員でこれだけ上げると、ここに表がありますように出して、このようにして欲しいと、あるいは定数もこうすべきだと思う、16に削減すべきだということを、具体的に書くという方法がいいのか、これは参考資料として見せながら、類似団体もこうだし、近隣もこうですから、やはりそこに近づけていくように、報酬も定数も考えるべきだと。</p> <p>報酬を上げることになりますけれども、定数は削減すべきだというような表現にとどめておくのか、というような表現の問題かなというふうには思いますけれども、これは皆さんいかがお考えでしょうか。</p> <p>これはフリーで、副会長いかがでしょうか。</p>
	副会長	<p>この中の意見としては、報酬を今御提示いただいている額がありまして、ただ中で議長さんについてそれで同じように上げてもいいのかという意見がありましたので、私も実は、そこは上げなくてもいいのではないかなという思いがあるのですが、出す時には、これについても別の審議会の中で議論いただけるということですので、一定出していてもいいのではないかな。</p> <p>そして、定数についても、付帯意見でもろもろ言うことはあるとしても、あるいは減らさなくてもいいという視点のことも踏まえつつも、こ</p>

		この場としては2名減ということを出してもいいのではないかなというふうには思います。
委員		議長といいますと、やはり議会の顔という形で、いろんな公的な行事の場合に、議長が表に出て、議会を代表して出席されて、そういうような非常に重要な役割も担っておられますし、そしてまた議会での取りまとめということも、非常に重要な職責にあられると思うんですけれども、やはり副議長、議員との差がやはり結構大きいので、やはり私も先ほど述べましたように、議長については、ちょっと現状でいいんじゃないかなと思いますし、ただ類似団体の状況等も参考にしなければ、なかなか積み上げていって、これぐらいの金額というのは、なかなか出しにくいところもあるかと思いますので、そういった意味から申し上げますと、やはり類似団体を参考にするしか他に方法はないのかなというふうに思います。 ですから、今、出していただいたシミュレーション、その金額でもって、答申していただければいいのかなというふうに思います。
委員		どうするかというところですよ。私は、せっかくこうやって話していますので、それが理由としてはおかしいかもしれないですけども、金額示していいと思います。さっきからおっしゃっている議長の部分をどうするかというのは非常に難しいなと。最初からこうなっていなければ議員の方と一緒にいだろうなと思うんですけども、もうこうなっている以上、議長だからこそしないといけないこととか多分いっぱいあるんだろうなと思って、今下げると多分、頑張っってその議員の方も皆さんしゃべってくださいねという話になると思うんで、そこができるのであれば全然いいんですけども、だから、よくわかんないですね、これは。もう増やしてもいいと思うんですけども、40万を41万にして、それこそその分頑張ってくださいという話で、それだけの思いで、やっていますというので、気持ちの話になってきて、思いだから、私はもうふやすならみんなふやしてもいいかなと思うのと、定員に関しては、付帯の方に例えばその財政状況を踏まえて考えてくださいとかをつけるっていうのであれば、載せていいと思います。金額を載せるか、そもそもこういう表をざっと載せるか、載せないかみたいな。私は金額を具体的に示した方がいいと思います。
委員		私も先ほどと同じなんですけれども、せっかくここで話し合いをしているので、それは示すべきじゃないかなと思います。
委員		具体的な金額は、提示した方がいいとは思いますが。議長、副議長、議員に差があるというのは、昔からだとは思いますが、私わからないんですけども、それなりの理由があつてのことなので、これは別にこのままスライドしていいと思います。

	会長	<p>まとめますと、やはり具体的な数字を一応シミュレーションとして、具体案としまして、類似団体に近くすると、こういうことが考えられますということで、一つの案として御提案申し上げるということで、ただ議長についてはそのままでもいいんじゃないかというような御意見もあるというようなことや、定数の削減というものを考えられるべきというようなことは、付帯意見で申し添えていくという形をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは次回、事務局の皆さんまた大変ですけれども、一定の報告書案を作成いただいて、次回お示しをいただきまして、そして委員の皆様の最終的な御確認をいただきまして、次の最終答申に向けて進めて参りたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。</p>
3 その他	会長	<p>それでは、事務局、今後のスケジュール等について事務連絡等よろしくお願いいたします。</p>
	事務局	<p>まず、1点お願いですが、机の上に第2回の審議会の会議録の確認の御依頼の文書を置かせていただきました。お忙しいところ申し訳ないですけれども、またご一読いただいて、修正箇所等ある場合は、メールやFAXで、事務局の方までお知らせいただきたいと思います。</p> <p>次、第4回の会議は、令和2年10月6日（火曜日）午前10時から、こちらの会議室で開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。内容については、先ほど会長がおっしゃっていただいた、答申案の審議ということをお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
	会長	<p>それでは、10月6日になりますけれども、また皆様お集まりのほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、今日も円滑な議事に御協力いただきまして、どうもありがとうございました。これにて審議を終わりたいと思います。</p>
4 閉会		午前11時12分